

平成 30 年度第 1 回 新潟県・新潟市調整会議の概要

～新潟県の拠点性向上に資する新潟市の都市機能向上に向けた県市の取組状況～

1 新潟市の都市デザイン

H29.8 県市調整会議での確認事項	H30.7 県市調整会議での報告確認事項
<ul style="list-style-type: none"> □ 全体の統一したキーコンセプト、トータルグランドデザインを描ける統一したプロデューサーが必要 □ 新潟市は有識者、経済界、県などで構成する「拠点化に向けたまちづくり懇談会」を設置し、都市デザインの意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 都市計画・都市景観の専門家である西村幸夫氏（東京大学名誉教授）が拠点化まちづくりアドバイザーとして参画 ■ 左記懇談会の意見等を踏まえ、「新潟都心の都市デザイン」を策定

2 新潟駅周辺整備

H29.8 県市調整会議での確認事項	H30.7 県市調整会議での報告確認事項
<p>[新潟駅万代広場の整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 新潟市は有識者、経済界、JR、県などで構成する「万代広場整備検討委員会」を設置し、万代広場計画の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 左記検討委員会や市民意見等を踏まえ、平成 30 年度中に、都市デザインの理念を踏まえた設計に着手予定
<p>[新潟駅から古町までの街路・歩道]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 新潟市は有識者、経済界、交通事業者、県、国などで構成する「にいがた交通戦略プラン検討委員会」を設置し、市内交通体系の行動計画（交通戦略プラン）の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 左記検討委員会の意見等を踏まえ、平成 30 年度末までに、新たな「にいがた交通戦略プラン」を策定予定
<p>[新潟駅南口広場の利活用]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 県・新潟市等で、土地利用や機能など課題の整理や検討の進め方について協議し、平成 29 年度末を目処に、検討体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 検討体制については、平成 29 年度末に実施した交通拠点利用調査結果や民間関係者との意見等を踏まえ、県・新潟市等で改めて協議

3 新潟港

H29.8 県市調整会議での確認事項	H30.7 県市調整会議での報告確認事項
<p>[新潟西港（万代島にぎわい創出）]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 平成 29 年度末を目処に、新潟西港の魅力創出と活性化の取組について、引き続き経済界、民間、漁協、新潟市、新潟県、国などで構成する「水辺まちづくり協議会」で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 左記協議会の意見等を踏まえ、平成 30 年度末までに、万代島地区の将来ビジョンを作成予定
<p>[海フェスタ、新潟開港 150 周年]</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 平成 30 年度の事業実施を目指し、平成 29 年度末を目処に、海フェスタ及び新潟開港 150 周年の取組について、各「実行委員会」で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成 30 年 3 月に、「新潟開港 150 周年記念事業実行委員会」及び「海フェスタにいがた実行委員会」を開催し、平成 30 年度事業計画を承認

新潟都心の都市デザイン

—開港 150 周年を契機に次世代のまちづくりを考える—

目次

1	はじめに	……………1
2	新潟都心の都市構造の変遷と今後	……………2
3	新潟都心の都市デザイン	……………3
4	次世代のまちづくりに向けて	……………4

1 はじめに

①なぜ都市デザインを描くか

求められている拠点性の向上

- 少子・高齢化に対応し、持続可能な都市になるため、市民が集うにぎわい創出や交流人口の拡大による活性化が不可欠

拠点性向上のための都心部の役割の明確化

- 中枢的な業務・商業機能が集積する都市の象徴的な市街地
- 様々な魅力・交流から、新たな情報発信や文化が創造・発信される場所
- 高次都市機能が集積した「都市の顔」

新潟はまちづくりの節目を迎える

- 2018年度は開港150周年や新潟駅の高架駅第一期開業など新潟のまちづくりが大きな節目を迎える

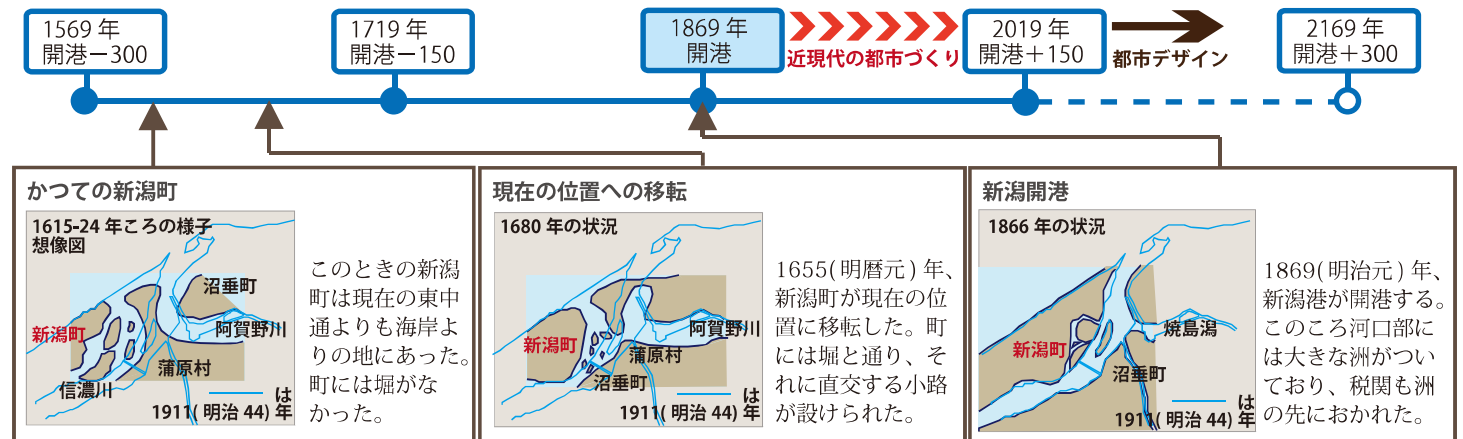
都市デザインのポイント

- 新潟がこれまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、それが市民の暮らしと結びつくような、魅力ある新潟のイメージが持てるデザイン
- コンセプトが明確でわかりやすく、共通の視点をもつことでこれからのまちづくりに活かせるデザイン

②都市デザインを描くために

次の150年を見据えるために

- 開港から150年を迎える節目の今、これまで続いてきたまちづくりの流れを途絶えさせることなく、新しい新潟の都市デザインを描くために、現在の新潟に至るまでの都市構造の変遷を振り返る



都市デザインの基礎

- 信濃川の恵みにより発展してきた新潟は、川がもたらす砂と水への対応を通じて、その都心を形成してきた
- 一方で、信濃川の流れに向かって垂直に交わる都市づくりを行うことで、新潟は発展の礎を築いてきた

2 新潟都心の都市構造の変遷と今後

参考資料：新潟歴史双書

①新潟都心の都市構造の変遷

信濃川に並行する 横の都市づくり（面）

かつては堆積する土砂に対応して町の形を合わせてきたが、分水路開通などで、川の流れをコントロールできるようになり、埋め立てをはじめ水辺利用に取り組んでいる。

江戸
1869開港
明治
大正
昭和
平成

- ① 湊が浅くなり使えなくなったため町を現在の位置に移転させ、信濃川に並行し町の軸となる堀を掘った。
- ② 開港時には河口部に税関が置かれ開港都市となるためのまちづくりが行われた。
- ③ 川沿いに鉄工所や造船所が、また同じころ駅が新潟に立地し、鉄道がつながることで、新潟が産業都市としての顔を持つようになった。
- ④ 産業を支える近代港が構築された。後には様々な用途で活用される。
- ⑤ 信濃川の沿岸は、万代シティ、やすらぎ堤、芸術文化会館などが整備され、賑いや憩いの場所となってきた。

信濃川に垂直な 縦の都市づくり（縦軸）

信濃川に沿って層のように分布する新潟の町と町をつなぐことで、異なる新潟の機能を一体化し、さらなる発展を導いてきた。代表的かつ重要な軸は、都心軸。

A 小路：信濃川や堀に直交する小路を導入した。榎谷小路は町の中心にあった奉行所と町会所をつなぐ小路で、新潟町と沼垂町をつなぐ交通は舟運によるものだった。

B 萬代橋：新潟町と沼垂町をつなぎ、その後の新潟の発展の礎を築いた。

C 榎谷小路：萬代橋と新潟の奉行所跡をつなぎ、初期の都市計画で新潟の軸とされた。

D 東大通：新しい新潟駅と、旧萬代橋東詰を結ぶ大幅員道路として設計され、陸の玄関口のメインストリートとなった。

E 新潟駅：高架化によって新潟駅南北の市街地が一体化し、さらなる拠点性の向上をめざす。

②今後の都市デザイン

- 開港から150年、新潟の都心は信濃川に向かって層状に拡がり、それらの市街地が縦の軸によって深くつながり発展してきた
- 層状に拡張した市街地の中では、さらにその空間が高度化・多機能化し、今まで発展を支えてきた都市機能の更新や身近なまちづくりが始まっている
- これからの新潟都心の都市デザインは、それぞれの面の成り立ちや特色を活かしたまちづくりの上に、みなとまちの発展の歴史を、歩行者や公共交通で移動する人が実感できる、信濃川や港を核としたまちづくりを展開する

3 新潟都心の都市デザイン

①都市デザインの出発イメージ

新潟を特徴づけてきた、奉行所から始まる軸の都市づくりは、150年かけて新潟駅へとつながってきた。
開港150周年を契機に、今度は新潟駅から、地域への愛着と誇りを醸成するような、人を中心とする新しい新潟の軸を考える。

新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは…

- かつて信濃川に並行して堀と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する
- それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す（新潟駅～古町間で約2km）
- 将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

参考イメージ

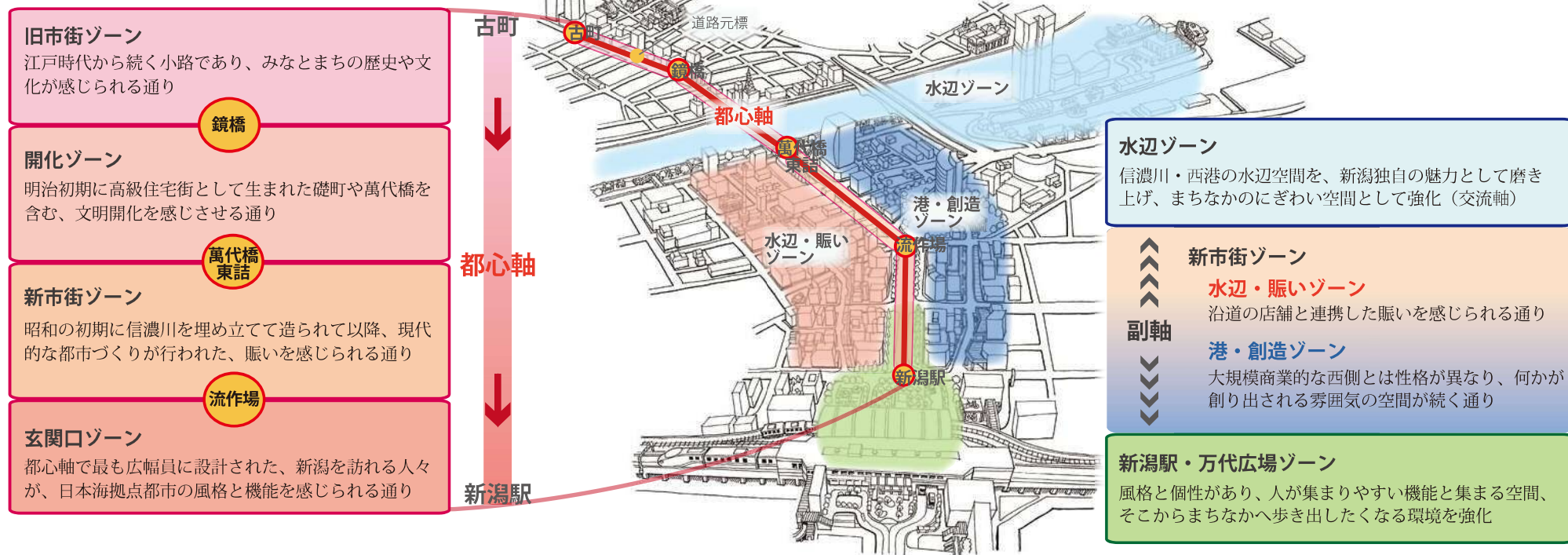


シャンゼリゼ大通り(パリ)…約2km



御堂筋(大阪市)…約4km
※写真はイルミネーションイベント

②新潟駅から始まる取り組み



4 次世代のまちづくりに向けて

開港から 150 年をかけて形成されてきた不動の軸（新潟駅～古町）を、
次世代のアイデンティティとしていく

旧市街・開化ゾーン

- 堀～通り～小路の町割りを活かす
- みなとまちの歴史・文化的な街並みや花街文化・食文化を活用する
- 様々な都市機能の集積・回帰によるまちづくり

副軸

弁天ルート（水辺・賑いゾーン）

- 沿道の店舗と連携してイベントやオープンカフェにより、訪れた人がより開放的な賑いを感じられる
- 新潟らしさを感じながら水辺へと誘われる仕組みづくり

水辺ゾーン

- 水辺空間を新潟独自の魅力として磨き上げ、まちなかの賑いを創出する
- やすらぎ堤と、橋・道路・建物といった水辺周辺の空間を一体的につなげる

都心軸

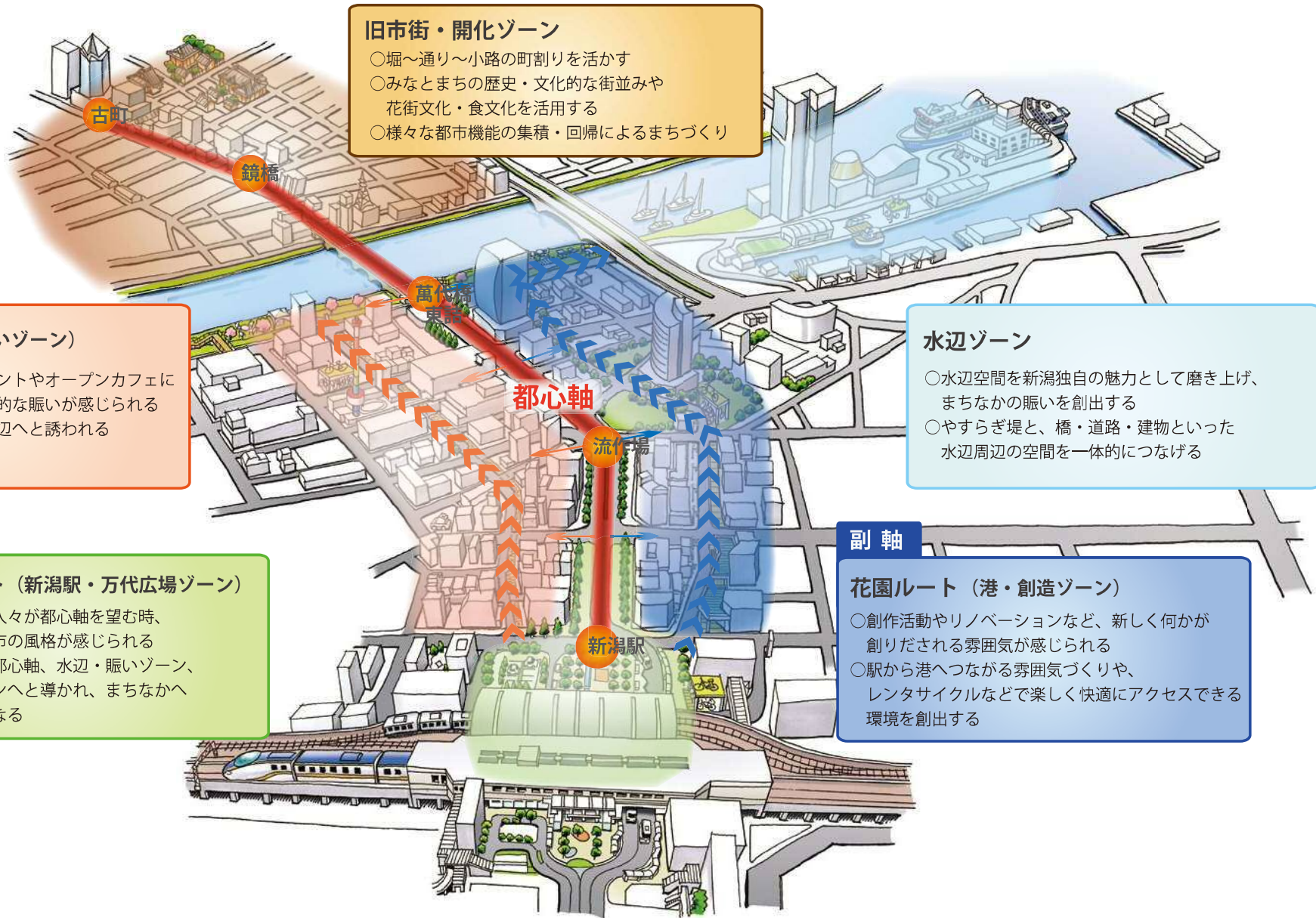
東大通ルート（新潟駅・万代広場ゾーン）

- 新潟を訪れる人々が都心軸を望む時、日本海拠点都市の風格が感じられる
- 駅前広場から都心軸、水辺・賑いゾーン、港・創造ゾーンへと導かれ、まちなかへ歩き出したくなる

副軸

花園ルート（港・創造ゾーン）

- 創作活動やリノベーションなど、新しく何かが創りだされる雰囲気が感じられる
- 駅から港へつながる雰囲気づくりや、レンタサイクルなどで楽しく快適にアクセスできる環境を創出する



「新潟都心の都市デザイン」について

～「都市デザイン」監修：東京大学名誉教授 西村幸夫氏から～

現在の NEXT21 には旧奉行所があり、それに正対して、かつての萬代橋東詰の先に現在の新潟駅を置いて、新旧の拠点が向き合うようにして都心軸を形成している。その軸が 150 年間ぶれていないところが、他都市にはない新潟の個性であり、新潟の財産。

新潟にはその軸を育ててきた歴史があり、無意識であっても市民に根付いて、揺らぎがないように思う。開港 150 周年の機会に、これまでの都市構造の変遷を改めて見直して、「都市デザイン」のような形で将来像を明示化し、次の 150 年もこの軸の上にストーリーを作っていくことを伝えるべき。

まちづくりは多様な主体で担うため、多くの関係者が同じビジョンを共有しないまま、各々事業を実施されると、全体として統一感がなく、魅力に欠ける状態に陥る。

都市デザインの実現には、かなりの期間が必要。そこに至るまでのプロセスを上手くデザインしていくことも一緒に考えないといけない。長期にわたる変化をイメージできるような、将来のビジョンを県市はもちろん、市民・県民や民間も共有するような仕掛け・工夫が求められる。

徐々にまちが変わっていることを実感することが大事。例えば、通りがきれいになって、行政も力が入っているということが分かったら、将来のビジョンを自分の生活のビジョンにも重ねられる。

今後は、もう少し副軸や港の方向に取り組みを広げるなど、都心軸をもっと豊かにするような取り組みも行い、それが全て、都心軸という幹に収れんしていく、というストーリーになることを期待している。

平成 30 年 7 月 23 日 西村 幸夫

新潟県と新潟市の課題整理 各検討テーマの進捗状況

1 ハイレベル国際コンベンション誘致

対応方針(合意事項) (H28.7 調整会議)	進捗状況
□政府間会合では、首脳レベル、閣僚レベルのコンベンションを中心に、定期的かつ継続的な誘致に向けて、県市で連携して取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ■県・市共同の推進体制として「ハイレベル国際コンベンション等新潟開催推進会議」を設置(平成29年2月) ■2019年G20 農業大臣会合の新潟市開催が決定(平成30年4月)

2 県・保健環境科学研究所と新潟市・衛生環境研究所の連携

対応方針(合意事項) (H28.7 調整会議)	進捗状況
□両研究所間で、感染症発生時などのリスク事案への対応に関する協定締結を検討	<ul style="list-style-type: none"> ■両研究所間で協定締結済(平成29年2月覚書締結) ■麻しん疑い患者が新潟市内で発生した際、同協定に基づき対応策を実施(平成29年5月)

3 職員研修の共同実施

対応方針(合意事項) (H28.7 調整会議)	進捗状況
□行政組織の垣根を取り払った職員研修の共同実施などについて検討。	<ul style="list-style-type: none"> ■職員研修の県・市の共同実施について、随時、実施・拡大中(例:経営管理研修、政策形成研修、行政法務研修、女性キャリア・マネジメント研修、LGBT研修)

4 文化プログラム(国民文化祭)

対応方針(合意事項) (H29.8 調整会議)	進捗状況
□国民文化祭(平成31年新潟県開催)を契機とした文化プログラムの浸透・充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ■「第34回国民文化祭、第19回全国障害者芸術・文化祭新潟県実行委員会」を開催し、平成30年度事業計画を承認(平成30年3月) ■文化プログラム(beyond2020プログラム*)の認証を実施

*beyond2020プログラム:2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、日本文化の魅力を発信する文化的行事の認証制度。